

令和5年8月25日（金）～9月25日（月）

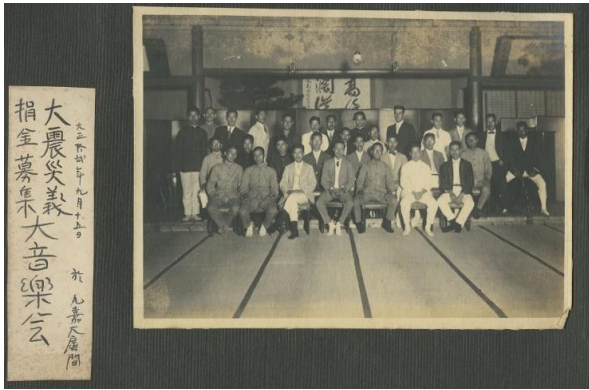
展示解説シート

ミニテーマ展示「関東大震災 100 年-久留米市文化財収蔵資料から」

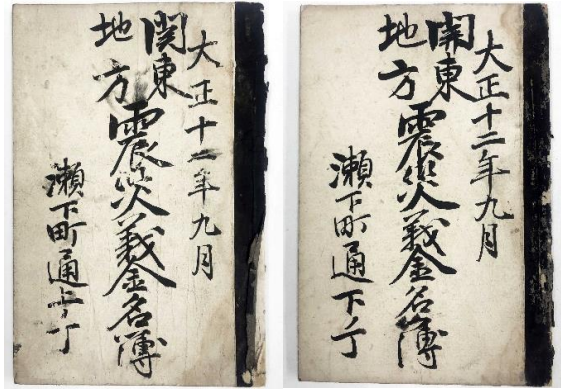
大正12年（1923）9月1日、相模湾北西部を震源とし、M7.9と推定される巨大地震が発生しました。その被害は、関東を中心にして広域に及び、死者・行方不明者は約10万5千人、大勢の人々が家族と住宅を失いました。

本年、未曾有の被害を出した関東大震災の発生から100年を迎えます。この節目にあわせて、久留米市所蔵の関東大震災関連資料を展示公開し、当時の震災と久留米との関わりを紹介します。

毎年9月1日は、関東大震災の教訓を忘れないため、またこの時期に多い台風への心構えとして「防災の日」とされています。災害の歴史を知ることは、防災について考える一つの手立てとなります。



●写真「大震災義捐金募集大音楽会」(大正12年)
現在の市役所西側近くにあった料亭「丸嘉」で、罹災者支援のためチャリティーコンサートが開かれました。演奏は、市内通外町出身の古川潤二（1890～1950、洋画家・籃胎漆器の制作技術者・音楽家）が指揮を執った合奏団「共鳴音楽会」でした。

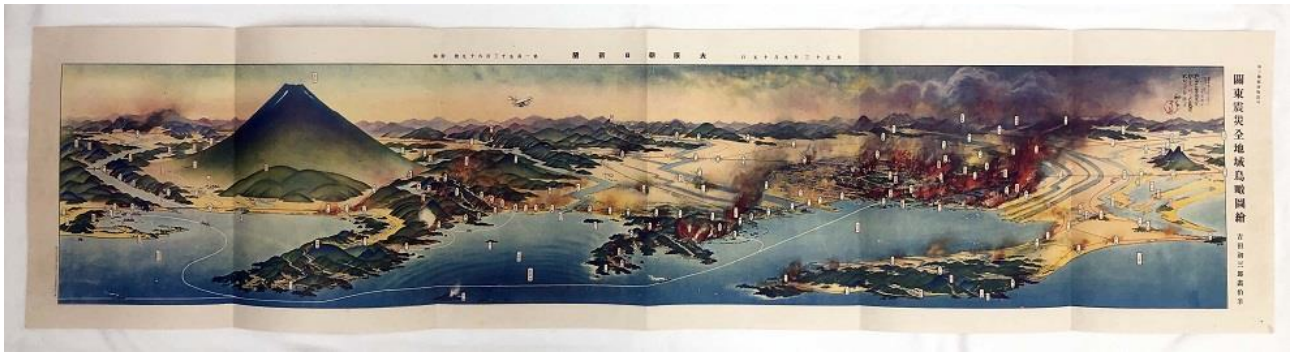


●関東地方震災義金名簿 瀬下町 (大正12年)
市内瀬下町で集められた義捐金寄付者の名簿です。中には寄附額と氏名が記され、本資料の上ノ丁、下ノ丁に加え、上濱町、下濱町、横町、裏町と区域別に名簿が残されています。

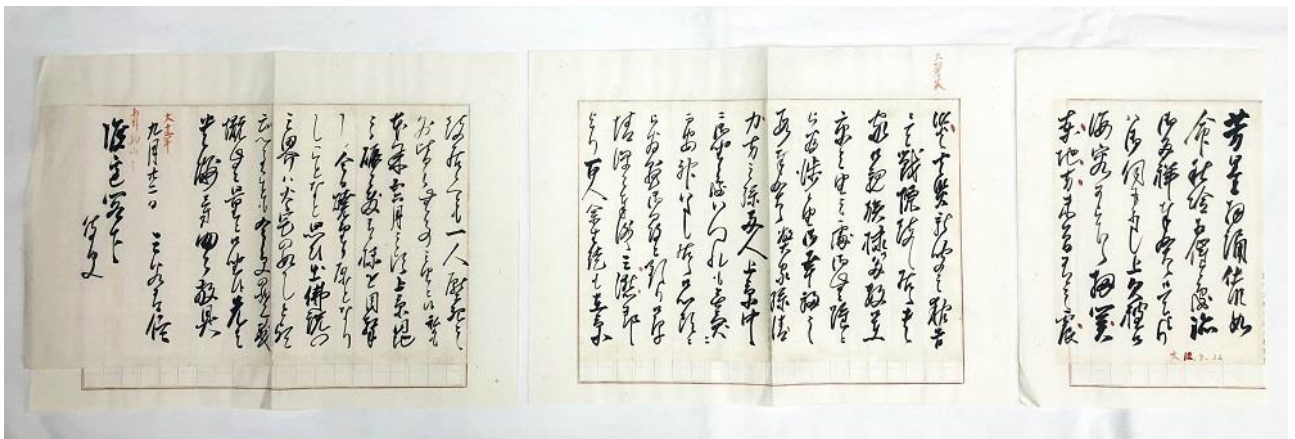


●左) 関東大震災記 (大正12年)
大阪朝日新聞社編集

●右) 大正大震災大火災 (大正12年)
大日本雄弁会講談社編纂



●関東震災全地域鳥瞰図絵（大正13年）大阪朝日新聞附録・吉田初三郎筆
 ※裏面に「震災後の一年間」と題して、復興に関する記事が掲載されています。



●三谷有信書簡「関東地方未曾有之震災之事」（大正12年）
 【釈文】

芳墨拝誦仕候、如命秋冷相催候處、弥御多祥奉賀候、是より八御伺も不申候上、欠禮御海容可被下候、規関東地方未曾有之震災・火災、新聞之報告にて戦慄致し居候、貴家御親族様御多数御在京之由二候處、御無難二被為涉候由、御幸福之段奉賀候、弊家孫・清力方之孫、兩人上京中二御座候處、いづれも無異二而安神いたし居候、御心頭二被為懸、御尋三預り、御厚情深々奉謝候、三瀨郡より百人余、生徒も在京致居候へとも、一人壓死二候外、皆々無事之由二候、私も本年五・六月之頃上京、同地之賑々敷有様を目撃し、今日焼野か原となりしことなと思ひ出、佛説の三界火宅の如しと歎云へること、今更の如く感慨無量二御座候、先者貴酬旁勿々敬具
 九月廿二日 三谷有信
 渡邊閣下
 侍史

三谷有信（1842-1928）が東京の知人に宛てた、9月22日付の手紙です。新聞で震災・火災について知り、先方の親族が無事だったことへの喜びを伝えています。また、上京中の有信の孫等への気遣いに対する感謝、三瀨郡の「生徒」100人程が在京し1人を除き無事だったことなどを記しています。

三谷有信：久留米藩最後の御用絵師の一人で、狩野派に学んだ。明治以降、明善校助教、久留米師範学校一等教諭兼幹事、赤松社社長、県会議員、市会議長などを勤める。郷土史研究にも力を注ぎ『筑後地誌略』など複数の著書も残した。